

立命館大学大学院応用人間科学研究科校友会設立趣旨

2007 年 9 月 16 日

立命館大学大学院応用人間科学研究科校友会

立命館大学大学院応用人間科学研究科は 2001 年 4 月、文字通り 21 世紀の幕開けとともに開設された生まれたばかりの大学院ですが、その研究使命は人間諸科学の「連携と融合」の理念のもと、新たな対人援助学の構築を図ることにより、多様な対人援助活動にしっかりとした学問的バックボーンを与えようとするものです。従来の対人援助学は「全体としての人間」をばらばらに分割し、心の問題は主として心理学や宗教学で、身体の問題は医学生理学で、教育の問題は教育学で、看護の問題は看護学で、福祉の問題は福祉学で、制度や組織の問題は社会学や政治学でという具合に細かく細分化されたかたちで取り扱ってきました。本来、統合学の責務を担っているはずの哲学すら文献学的な哲学史研究に閉じこもりがちなのが現状です。これでは「全体としての人間」は見失われざるをえません。それに対して、本大学院のめざす使命は、人間諸科学の「連携と融合」の理念のもと、統合的（インテグラル）な対人援助学を構築することにより「全体としての人間」を取り戻そうとするものであります。

以上の抱負のもとに本研究科は発足したのですが、幸い教育・研究両面にわたって研究スタッフの献身的な尽力のおかげで、これまで順調に育ってきており、この間 300 名を越える 5 期生までの修了生を無事送り出すことができ、心理臨床系や医療看護系や発達福祉系や教育系の対人援助職場、公務員や民間企業、大学院博士後期課程進学や大学の教育研究職にと、それぞれ多彩な活躍の場を求めて巣立っていってくれております。

しかし、それとともに、しだいに修了生の数が増すにつれ、修了生相互の緊密なネットワーク構築の必要性が痛感されてきております。また、現役院生からも研究科 OB との就職活動を含む情報交換・研究交流の要求の声が高まってきており、これに応えるべく、この間半年にわたって研究科運営委員会、研究科教授会において協議した結果、本研究科のなお一層の発展にむけて、本年 2007 年度をもって「応用人間科学研究科校友会」を立ち上げることに決定しました。尚、本応用人間科学研究科校友会は立命館大学においては、従来の学部を基盤にした校友会とは別に、研究科レベルで独自に設立される初の校友会であり、今後、他の研究科でも同様の動きが見込まれ、その先鞭をつけるものであります。